

令和5年度 学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

目指す学校像 志木高スピリット（立志・言志・統志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校

重点目標	1 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 2 志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 3 安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 4 地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
B 概ね達成(6割以上)	
C 変化の兆し(4割以上)	
D 不十分(4割未満)	

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 11名 生徒 3名 事務局(教職員) 13名
-----	------------------------------------

年度目標				年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	【現状】 ○生徒は授業に落ち進んで取り組んでいるが、家庭学習が少なめとなっている。 ○個別別評価が始まり、手帳等は統一できているが、評定の仕方、3観点の性質を鑑みた評価バランスを検討していく必要がある。 【課題】 ○生徒の学習習慣を一層確立させ、その内容や質にも出る必要がある。 ○1人1台情報端末を導入初年度であり、各教科で効果的な活用方法について検討が必要である。 ○重点別評価についての教員の理解度をさらに向上させ、本校の実情に合わせて評価項目の見直しを行う。	「主体的な学び」と学力の向上	① 生徒対象のアンケートを年2回実施し、その結果をもとに生徒の学習習慣を分析する。 ② 1人1台情報端末の活用事例等を職員全体で共有する。 ③ 保護者向けにチラシやまなびの手引きを配布、活用し、家庭と連携した家庭学習を推進する。 ④ 重点別評価についての教員の理解度をさらに向上させ、本校の実情に合わせて評価項目の見直しを行う。	① アンケート結果と分析をフィードバックできたか。 ② ICT機器の有効活用が広がられたか。 ③ シナバスやまなびの手引きの活用状況 ④ 教科書を定期的に開講し、評価項目の見直しやし度度の評価項目の作成ができたか。	【研修を通じた授業改善とICTスキル向上】 ① 生徒授業アンケートでは授業満足度90%であった。個々の意見は教科書にフィードバックし、授業改善を図った。 ② 1人1台端末(Chromebook) 初年度のため、利活用促進のため職員向けに活用研修会を2回開催する等、授業を充実させた。 ③ まなびの手引きを活用して、適切な履修・科目選択に向けて体系的な履修指導を実施することができた。 ④ 学期ごとの詳細の振り返り、内訳の検証等を教科書で実施した。それにより年間を通じて重点別学習評価への意識づけを高めることができた。
2	【現状】 ○生徒の進路実現を図るため、計画的な進路指導を継続する。 ○推薦入試と総合型選抜入試で受験する生徒が大多数である。 【課題】 ○計画的な進路指導を継続し、生徒の進路実現を図り、セルフマネジメント力の育成に向けた指導体制の取組	生徒の進路実現を図り、セルフマネジメント力の育成に向けた指導体制の取組	① 総合的な探究の時間等を活用し、社会とのつながりを踏まえたキャリア意識の育成に取り組む。学年ごとの課題に応じたガイダンス、講演会などの行事を充実させる。 ② 進路資料室の資料等の整備・ICTを活用した進路指導の充実。 ③ 適切な進路ガイダンスの提供及び展示の工夫による図書館での授業利用及び貸出数が高いレベルで維持されたか。 ④ 「ShikiDiary」の積極的な活用によるセルフマネジメント力の向上を図る。 ⑤ 学習意欲が高まり進路相談の開催や模擬試験受験者が増えたか。	① 1年生の主体性を育む各学年進路行事と分野別指導・説明会等の実施状況 ② 「進路の手引き」や進路啓発資料の活用状況	【学年・分掌・教科の連携による進路指導体制の確立】 ① 1-4各学年間の計画通りガイダンス等の進路行事を行った。2学年では今年度新たに上級学校見学会を実施し、進路意識が更に高まった。 ② 2ガイダンスや担任からの発信等でも、進路の手引き、ShikiDiary、Classiを活用することができた。 ③ 推薦入試、オープンキャンパス、模範校を巡る生徒や保護者への面談等を通して情報提供を行った。 ④ 進路相談や推薦入試と連携したイベントを通じて、生徒の利用意欲を高めた。 ⑤ 手帳活用アンケート「週1回以上87%（昨年67%）生徒向け手帳活用14回発行。 ⑥ 本校の受験数は今年度のべ3級20人（61%）、準2級79人（35%）、2級42名（12%）と昨年度より増加している（カッコ内は第1、2回の合格率）。3学期実施の進学者用模範の受験者は123名（2学年）
3	【現状】 ○生徒一人一人が抱える課題が見えにくくなるように多様化する傾向にある。 ○多様な価値観を認め合い、安心して学校生活を送れるように、相談体制の充実や安全教育の取組を行っている。 【課題】 ○生徒の進路把握と、潜在化している問題を早期発見し、状況に応じた指導・支援が求められている。 ○進路者数を減少させる指導、進路マナーへの対応が必要である。	生徒に寄り添った安心・安全な学校生活の保障	① 情報リテラシーや公共施設・交通機関の利用マナー向上を図る。 ② 多様な進路情報を受け入れ、安心して学校生活を送れるように、相談体制の充実や安全教育の取組を行っている。 【課題】 ○生徒の進路把握と、潜在化している問題を早期発見し、状況に応じた指導・支援が求められている。 ○進路者数を減少させる指導、進路マナーへの対応が必要である。	① 情報教育や交通安全教室等の実施状況 ② 教育相談に係る事業を組織的に対応できたか ③ スクールカウンセラーや進路相談、担任との情報共有に努め、適切で細やかな指導を行った。 ④ 生徒情報を職員内で共有し、関係機関と連携しながら相談体制を充実させたか。 ⑤ 効果的な活用を進めることができたか。	【教育相談をはじめとする前に対応した支援体制の確立】 ① 情報教育（7月、12月）、交通安全教室（9月）実施 ② 年度当初、指導上配慮を要する生徒の情報共有のあり方について確認を行い、学年内にとまどらず、関わる職員全員が共有できるような情報の集約方法の検討を行った。 ③ スクールカウンセラーによるカウンセリング20回実施、のべ人数41（1月6日現在） ④ 早くも連絡網による保護者への連絡は166回返信、アンケートは13回実施。
4	【現状】 ○近隣の市から通う生徒が多く、地域に根ざした学校との評価を得ている。 ○学校説明会や進路指導を学校全体で協力し取り組む体制である。 【課題】 ○コロナ禍により中止・縮小された事業を再開させ、交流活動を着実に実施する。 ○教職員自身の専門性を最大限発揮することができるようになるために、学校の業務改善に全校で取り組んでいく必要がある。	チームで取り組む業務改善・職場環境の整備による魅力ある高校づくり 保護者・地域に向けた志木高校の魅力の積極的発信	① 校務分掌や校内委員会の持ち方、業務の内容や進め方を見直す。教職員自らも教育活動に加えて、校内委員(分掌・係活動等)に携わる点を見直し業務の内容や進め方等について、改善を進め、負担感の軽減をなくし、働き方改革を促進する。 ② 部活動、学習サポーターの効果的な活用とICT支援員の導入を含め校務の効率化について模索する。 ③ 全職員の協力により、学校説明会等を開催する。	① 1「学校における働き方改革基本方針」に則り業務内容や業務の進め方を見直し改善が進んだか。 ② 1-2教職員の悩みを吸い上げ、企画委員会、衛生委員会、保健室、学年等を通じてチームで解決を図られたか。 ③ 継続している支援の状況とICTの活用等や校務の効率化が図られたか。	【チームワークによる業務改善・職場環境の整備】 ① 1-1 さくら連絡網の導入により勤務時間前の電話対応が解消された。各分掌より教職員を抽出し教職員全員が携わり、中学生・保護者のニーズを共有することができた。 ② 1-2 企画委員会、衛生委員会、保健室、学年等を通じて常に情報共有しチームで解決ができた。 ③ ICT支援員、事務補助員が昨年より継続導入されていることにより、教職員の業務が軽減されている。

学校関係者評価	
実施日	令和6年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	① 1台端末を使用した生徒同士学びあっている授業を見学した。使うのは生徒なのを感想を拾っていたが、常に改善をしていくと良い。 ② 1人1台端末の導入で朝学習、授業、進路ガイダンスなどの行事で適切な利用ができた。 ③ 生徒は端末をうまく使用しグループ活動、協同的な学びができており、授業態度もとても良い。充電切れなどの物理的な問題解決の必要があるが、ICT支援員との連携を深め、授業を充実させてほしい。
進路指導を考えると	進路指導を考えると、十年後二十年後の姿から逆算して考えることが大事である。この先の進路を考えると、これまでの自分の歩みの延長線にあることを学生に伝え、長い人生で進路指導をしてほしい。
進路多様性である志木高校は	進路多様性である志木高校は大学進学のための進路指導が大事かと思う。多くの生徒は大学卒業後の進路に悩んでいる。将来の主権者たる生徒を中心に学校運営してほしい。
高校は信頼できる人間になるように指導できる生徒にとって	高校は信頼できる人間になるように指導できる生徒にとって最後の教育機関である。正しい生活習慣を身につけ大人になってほしい。指導があるのは立派な大人になるために必要なことなのは、生徒に理解してもらいたい。
地域と連携した様々なボランティア活動を生徒を中心に積極的に	地域と連携した様々なボランティア活動を生徒を中心に積極的に取り組んでほしい。HPや学校説明会などで受験生にも伝えたらどうか。
教員のなり手がここ数年減少している。仕事の疲労など	教員のなり手がここ数年減少している。仕事の疲労などどんなものがあるか、時間がかかっても疲労を感じないものもある。逆に短時間でとてもすくすく疲れるものもある。長時間労働の働き方改革だけでは不十分か。視点を見直し必要か。
校務の効率化を図り負担を少なくする必要がある。保護者のバックアップも必要である。	校務の効率化を図り負担を少なくする必要がある。保護者のバックアップも必要である。
高校は住んでいる地域が違うため、保護者の連携が	高校は住んでいる地域が違うため、保護者の連携が大事だが、遠いからこそできる取り組みもあるはず。地域とぜひ連携してほしい。